

# 科目 病理学 (Pathology)

担当教員 蛭田 啓之、澁谷 和俊、高橋 啓、大原関 利章

## 【1】 授業の目的と学習成果〔教育目標・具体的な項目〕

病理は実験動物などを用いて疾病の病因解明などを行う基礎医学と、疾病の診断や治療の効果測定などを通じて臨床に寄与する臨床医学の両面を有しており、ここで学ぼうとする臨床病理学は基礎と臨床を結ぶ、まさに境界領域の学問ということができる。疾病の原因、病態、形態学的所見などを総論的に理解し、各疾病の臨床所見、病理所見、治療法、転帰などを各論的に学び、両者を有機的に結びつけることを目的としている。

<教育目標>

- (1) 十分な知識・技能と、科学的な探究心・思考力・批判力をもつ
- (2) 自ら主体的に学ぶ力をもつ
- (3) 他者と協力して課題を解決する力をもつ

<具体的な項目>

専門分野における十分な基礎知識・基本技能 (1)  
 関連する分野における概括的な基礎知識・基本技能 (1)  
 根拠に基づいて科学的な推論を行い、結論を導く能力 (1)

## 【2】 授業計画

| No. | 内 容                                  |
|-----|--------------------------------------|
| 1   | 病因論、病理学の概要 (担当: 蛭田)                  |
| 2   | 病理検査技術 (1) 死体解剖、組織検査法、細胞検査法 (担当: 澁谷) |
| 3   | 病理検査技術 (2) 標本の整理と保管法 (担当: 蛭田)        |
| 4   | 代謝障害と関連疾患 (担当: 蛭田)                   |
| 5   | 循環障害と関連疾患 (総論) (担当: 蛭田)              |
| 6   | 循環障害と関連疾患 (各論) (担当: 高橋)              |
| 7   | 炎症、免疫と関連疾患 (総論) (担当: 蛭田)             |
| 8   | 炎症、免疫と関連疾患 (各論) (担当: 大原関)            |
| 9   | 腫瘍と関連疾患 (総論) (担当: 蛭田)                |
| 10  | 腫瘍と関連疾患 (各論1) (担当: 蛭田)               |
| 11  | 腫瘍と関連疾患 (各論2) (担当: 蛭田)               |
| 12  | 腫瘍と関連疾患 (各論3) (担当: 蛭田)               |
| 13  | 細胞診技術 (1) (担当: 蛭田)                   |
| 14  | 細胞診技術 (2) (担当: 蛭田)                   |
| 15  | 学習達成度の確認 (担当: 蛭田)                    |

## 【3】 到達目標

疾病の原因、病態、形態学的所見などを総論的に理解し、各疾病の臨床所見、病理所見、治療法、転帰など説明することができる

## 【4】 授業概要

人体の剖検材料や手術材料、生検材料や細胞診材料などのマクロ写真およびミクロ写真を、ふんだんに呈示しながら講義を行い、講義プリントも充実している。

## 【5】 準備学習 (予習・復習) および必要時間

3年次で既習の解剖学・解剖学実習について復習しておくことが予習 (1時間) となる。  
 また、講義範囲について国家試験問題に取り組むことで復習 (1時間) すること。

## 【6】 教科書・参考書・参考資料

〔教科書〕 系統看護学講座 病理学 (坂本 編集, 医学書院)  
 〔参考書〕 組織病理アトラス 第5版 (小池盛也他編集, 文光堂)  
 〔参考書〕 標準臨床検査学 病理学・病理検査学 (仁木利郎他編集, 医学書院)

## 【7】 評価方法およびフィードバック

春学期定期試験 (100%) で評価する。また、試験後に模範解答を配布するので復習すること。

## 【8】 オフィスアワー

授業の前後で質問等を受ける

**【9】 関連科目**

〔予め学んでおくとい科目〕

生理学 組織学

〔この科目に続く内容の科目〕

臨床病理学実習

**【10】 その他**

特になし